伝道の歴史 掘り起こし

社会運動家・賀川豊彦 神戸で活動開始100年

ノーベル賞候補にもなった日本の社会運動家の草分け、賀川豊彦（1888～1960年）は100年前の1909（明治42）年9月、神戸のスラム街で本格的な路傍伝道を始めた。節目の今年、各地で顕彰活動が行われ、12月、神戸で集大成の記念式典とシンポジウムがある。格差社会が問題となる今日、貧困問題と向き合い、「友愛」を説いた賀川の生きざまから学ぶものは多い。

（社会部・河尻 悟）

賀川は神戸市兵庫区で生まれ、徳島県で育った。東京や神戸の神学校で学び、09年12月、路傍伝道を機に神戸のスラム街に住み込んで救貧活動を開始。20（大正9）年、自伝的小説「死線を越えて」が大ベストセラーになった。

21（大正10）年の三菱造船所（現三菱重工業）と川崎造船所（現川崎重工業）の労働争議では、主導的役割を果たした。同年7月、川崎争議団約1万3千人の先頭に立ち警官隊に拘束された。

その後、関東大震災の被災者救援や農民、女性の権利向上に尽力。ノーベル平和賞候補に3回推薦され、「日本のガンジー」とも呼ばれた。戦後間もなく、ノーベル文学賞候補に2回なったことも分かった。

■

その思想を継承しようと、顕彰活動を展開するのは「賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト委員会」（代表＝今井鎮雄・神戸YMCA顧問）だ。2007年4月に発足し、賀川が設立にかかわった社会福祉法人・学校法人イエス団やコープこうべ、兵庫県農協中央会などが名を連ねる。

事業の柱の一つは「100年シンポジウム事業」。第1回は今年3月、神戸大と共催で開かれ、講師に、ノーベル平和賞受賞者のムハマド・ユヌス氏（バングラデシュ）らを招いた。実行委員の一人で、賀川の孫督明さん(56)＝神戸市東灘区＝は「年1回、100年続けることを目指し、共に生きる社会を模索したい」と話す。

1921（大正10）年7月、三菱・川崎争議団の先頭に立つ賀川（右端）＝賀川豊彦記念・松沢資料館提供

12月に式典 出版も相次ぐ

賀川に関する出版も相次ぐ。6月に英文書「プラザーフッド・エコノミクス」の初邦訳版「友愛の政治経済学」（コープ出版刊）が刊行され、賀川の生涯を描いた漫画本も近く発行予定。

■

知名度を高めようと、08年5月から始まった賀川の業績を紹介するパネル展は、県内外の学校や市役所などですでに44回開催。ゆかりの地を訪ねるウオークも5回開かれた。著書を読み込み、業績やゆかりの地を紹介する「語り部」活動には主婦ら19人が参加している。

今年12月には、神戸市中央区吾妻通5に新しい「賀川記念館」が完成予定。関連書籍を保存したり、業績を紹介したりする「賀川ミュージアム」が設けられ、語り部のメンバーがガイド役として活動する。

その一人、綿野孝子さん(67)＝西宮市＝は「助け合いの精神が求められる時代、愛を実践した賀川に学ぶことは多い」と話す。

ニュースコンパス 兵庫